

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだよ

発行 麻生区クールアース推進委員会 2013年11月 vol.27

麻生区役所屋上太陽光パネル設置10周年記念

第2回



おひさまコンサート

～明るい明日を願って春を歌う～

2013年3月16日(土) 麻生市民館大会議室

目次

- ・第2回おひさまコンサート・・・・・・・・・・1
- ・ソーラークッカーをつくろう・・・・・・・・・・2
- ・今夏の異常気象とIPCC第5次評価報告書
・・・・・・・・・・3
- ・かえるプロジェクトの屋上見学・・・・・・・・・・3
- ・太陽光発電設置相談あれこれ・・・・・・・・・・4
- ・編集後記・・・・・・・・・・4



麻生区クールアース推進委員会では、区役所屋上太陽光パネル設置10周年記念事業の一つとして、3月16日麻生市民館大会議室において第2回「おひさまコンサート」を、あさお芸術のまちコンサート実行委員会の協力を得て開催した。

午後1時30分、まずクールアース推進委員会伊藤清美委員長・区役所代表の挨拶の後、岩田副委員長が地球温暖化を防ぎ、自然エネルギーの普及・啓発に取り組むクールアース推進委員会の活動を映像で紹介した。

参加者の中には初めて聞く方も多く、30分間の説明に熱心に耳を傾けていた。また、会場の後方には展示コーナーを設け、ソーラークッカー・おひさまボックス・パネル等を展示した。

午後2時コンサート開始。最初に、千代ヶ丘小学校の児童「スクールコーラスちよがおか」による合唱。「ビリーブ」および「未知という名の船に乗り」がはつらつと歌い上げられて会場は大きな拍手につつまれた。

二番目は、鈴木智子さんと野代奈緒さんによるヴァイオリンとピアノ合奏。三番目は渡辺春彦さんと加藤由美子さんによるフルートとピアノ演奏。いずれも、ベートーベンや、ヘンデルなど名曲の華麗な演奏に参



加者はうっとり・・・・・・・・・・。

小休憩を挟んだ後半のトップは詩の朗読。丸山博子さんの朗読“あしたへ”は東日本大震災や福島原発事故の後遺症に苦しむ人々へ明日への希望を呼びかける様に、参加者の心を温めた。

続いて、ヴァイオリン、フルートとピアノによる3重奏で、“ふるさと”、“花”、“夏の思い出”や“赤とんぼ”など皆が知っている日本の四季メドレーに、会場の参加者により大拍手の渦に包まれた。

最後に出演者全員と来場者による大合唱“忘れないで”に会場は最高潮に盛り上がり、コンサートは成功裏に終了した。

開場時刻前には、沢山の方に来場して頂けるか心配したが、開演時には急遽予備の椅子を用意するほどであった。

終了後、屋上の太陽光パネル見学会にも、10数人の参加者があった。自然エネルギー普及の目的も充分果たせたのではないかと。

最後に、参加の皆様や出演者の皆様より暖かい励ましの声や後日に感想のメール等を頂き大変感謝しています。

(矢沢美也・友政一幸記)



ソーラークッカーをつくらう!

本年度夏休みの小学生対象の環境イベントとして「ソーラークッカーをつくらう」を8月2日（金）に区役所会議室で実施した。

クールアース推進委員会では毎年麻生区の小学校で、5年生を対象に地球温暖化防止と自然エネルギー活用の大切さについての出前授業を行っている。前半は教室でパワーポイントを使って、現在私たちの住んでいる地球で温暖化がどのように進んでいるか、また、温暖化防止のために何をしなければならないか、私たちにどのようなことができるかを学習する。後半は校庭に出て、太陽エネルギーで電気を作りおもちゃを動かしたり、ソーラーカーを走らせる。手回し発電機を使い、人力で電気を作ることが如何に大変かを理解する。ソーラークッカーでサツマイモを焼いたり、目玉焼きを作ったりして太陽エネルギーがいかに素晴らしいかを体験してもらう。これらの実体験で、子どもたちに強く印象に残ることの一つに太陽エネルギーで料理をする「ソーラークッカー」で作られた焼き芋のおいしさがある。

このような経験から、今年の夏休みイベントとして小学生でも工作感覚で簡単につくれるソーラークッカーを作って、ゆで卵を作ることで太陽エネルギーの持つ素晴らしさを体験してもらうことを計画した。当初12名の応募があったが、実際に出席したのは10名であった。担当する推進委員が前もって製作の練習をしていたこともあり、子どもたちへの補助もスムーズに行えたので予定の時間内に10名全員が作る事ができた。自分たちの作ったソーラークッカーを屋上に持っていき、「ゆで卵」を作る実験のセットをしてから会議室に戻って小学校の出前授業で学習する地球温暖化防止ための学習をした。その後、屋上に行き先程セットした「ゆで卵」の出来具合を確認した。あいにくの曇り空であったし、時間が短かったこともあり半熟までならなかった。しかし、推進委員会が事前に製作・設置



ソーラークッカー製作

持つエネルギーの素晴らしさが実感できたとか、ソ



屋上でさあ実験だ!! ゆで卵はできるかな?



地球温暖化防止のための学習も…

ーラークッカー作りが楽しかったと記した。後日、百合丘小学校の子どもが、作ったソーラークッカーでの実験を「夏休みの自由研究」として学校で発表してくれたのは、実施した私たちにとっても大変嬉しいことだった。

そして、2日後の8月4日の日曜日に“ソーラークッカー”の大活躍する日が訪れた。原発事故のため避難生活を送っている福島の子どもたちを川崎に招いて活動している施設を私たちの会が所有しているサンオープン2台とイベントで作ったソーラークッカー2台を持参して訪問した。福島の子どもたち、保護者の方々、そしてボランティアの皆さんに、このソーラークッカーは2日前にイベントで小学生の皆さんが作ったものであることを説明した後、この4台でサツマイモやカボチャを蒸かしたり、パンを焼いたり、ソーセージを温めたりして皆さんに食べていただいた。晴天であったので、短時間で調理でき、しかも大変おいしくできたので大好評であった。子どもたちや大人たちも太陽エネルギーでこんなにおいしく調理できることに感心しきりで、簡単に作ることでできるソーラークッカーでカボチャがおいしく柔らかく調理できることにビックリの様子であった。
(岩田輝夫記)

今夏の異常気象と IPCC の第 5 次評価報告書

児嶋 脩

この夏、高知県四万十市で国内最高 41.0℃を記録した。関東でも、連日の猛暑、降水量が平年の半分近い少雨で、十数年前に移植して育ててきた私庭のカエデも立ち枯れし、衰れな姿になった。がっかりだ。その一方で、一回当たりの降雨量は凄まじく「ゲリラ豪雨」、積乱雲の巨大化による突発的な雷、あまり聞かなかった竜巻など、30年に一度といった異常気象が、平均して月に10件も世界のどこかで観測された。台風は9月に日本に接近して来るものと思っていたが、まるで旧暦になったように9月末から10月に押し寄せてきた。しかも南の魚、クロマグロやマンボウが北海道沖で獲れ、一方サンマの魚場が北上した。また沖縄のサンゴの死滅、白化現象がさらに進行した。秋らしい日はあったかなと思う間もなく、寒い日々を迎えている。

9月23日から26日かけて、ストックホルムでIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が開かれ6年振りとなる第5次評価報告書が、この間の新たな研究成果に基づいて第1作業部会（自然科学的根拠）から公表された。第4次評価報告書までと比べて「温暖化と人間活動の影響関係についての表現」で、可能性が95%以上で極めて高く、疑う余地がないとし、「20世紀半ば以降の温暖化の主要因は、人間活動の可能性が極めて高い」と断じた。

過去100年の気温上昇（1880～2012年）は、0.85℃となり、今世紀末の気温上昇予測、2℃以内に抑えるシナリオは、約1℃から最大で4.8℃となり、2℃を超える可能性が強くなった。海面水位は、26～82cm上昇を予測し、前回の18～59cm上昇を変更せざるを得ないのは、南極やグリーンランドの氷床の質量が減少しており、世界中の氷河もさらに減少しているため

だ。さらに、異常気象の原因となる、世界平均地上気温の上昇につれて、極端な高温の頻度が増えている。その結果、季節平均降水量の乾燥地と湿潤地間差、乾季と雨季の差異が増加する傾向が高く、中緯度の大陸のほとんど及び湿潤な熱帯域で、極端な降水がより強くなり、しかも頻繁となる可能性が高い。世界全体で海洋は昇温を続けており、熱は海面から深海へと広がり、海洋循環にも影響を与えている。海洋への二酸化炭素が蓄積し、海洋の酸性化も進んでいる。これらの変化はたとえ温室効果ガスの排出を停止したとしても、何世紀にもわたって持続するであろう。以上報告を概記したが、今回の報告は、地球の異常気象を納得させるものであり、むしろ今後の最悪の状況上にあるのではないかとの恐れさえ感じる。

今回IPCCには、100カ国以上の代表、さらに世界気象機関、国連環境計画などから300名以上が出席された由、その内に日本政府からも17名が参加した。今後ほぼ一年間をかけて本報告を検討して、20年からの対応策を15年までに練り上げることになるという。第4次評価報告書をまとめたIPCCは2007年にノーベル平和賞を受賞して話題となった。ところで、我が国の国際公約は民主党政権時代に「20年までに1990年比で25%削減」であったが、福島第1原発事故で行きづまり、自民党安倍首相はゼロベースでの見直しを指示していたが、大幅に後退した目標05年比3.8%減を明らかにした。この目標は90年比では削減ではなく3.1%増となる。早速COP19で「後ろ向き」との批判を浴び不名誉な「特別化石賞」を贈られた。技術先進国を自負する日本には世界の人々を納得させるリーダーシップを発揮して欲しいと切に願っているのだが。

かえるプロジェクトの屋上見学会

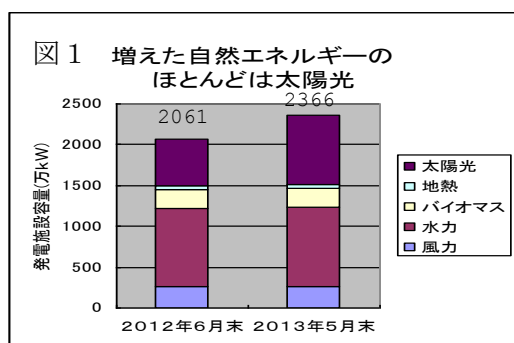
8月9日（金）

かわさきかえるプロジェクトは廃食油を回収して、リサイクル石けんや軽油代替のバイオディーゼル燃料（BDF；バイオディーゼルフェュエル）を作って、資源の地域内循環をめざしています。かえるプロジェクトのエコバスツアーの最後が、麻生区役所屋上の太陽光発電所の見学でした。暑さの中、コース最後という事で、疲れもピークの10数名の参加者と、屋上に上がってパネルの説明をしました。午後4時を過ぎていたが、まだ太陽は高い位置にあって、太陽光パネルはそこそこ発電をしていました。一番興味を示してくれたのは、小学生の男の子でした。大急ぎの駆け足見学会でした。（宮河悦子記）

太陽光発電設置相談あれこれ

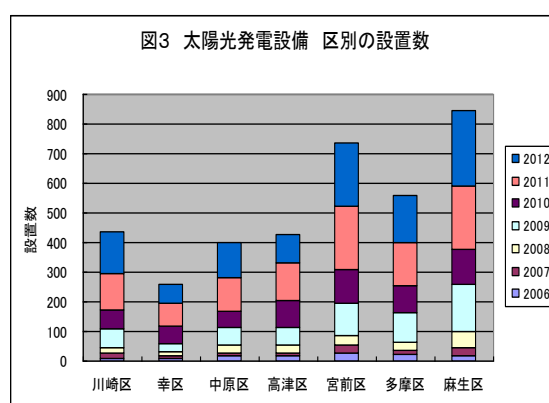
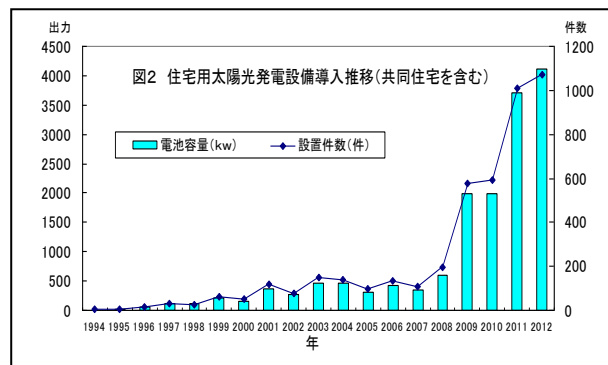
第3回「自然エネルギー発電15%増 麻生区は？」

経済産業省は8月20日、自然エネルギーの固定価格買取制度が始まって約1年間で自然エネルギーによる発電設備が約15%増えたと発表した(図1)。これは設備容量で原発3基分に相当する約305万kWで、大幅増となった。この内の9割超を太陽光発電が占めた。太陽光発電は52%の増加である。なお、住宅用太陽光発電の増加率は27%である。



一方、川崎市の太陽光発電設備の導入推移を図2に示す。2011年度末までの設備容量は1.16万kW、2012年度末では1.57万kWであり、35%の増加である。川崎市の増加率は全国平均を大きく上回っている。

次に、市内の区別の太陽光発電設備の設置数(川崎市の補助金制度が開始した2006年度より)を図3に示す。麻生区の件数が一番多いが、世帯数との比を取ると、わずか1.1%である。区内を歩いてみても太陽光パネルをあまり見かけませんね。



我々麻生区クールアース推進委員会は、自然エネルギーの普及・啓発を目的としており、その一環として太陽光発電設置相談会を開催しています。今年7月26日に行いました。次回は2014年1月31日(金)に開催しますので、迷っている方は是非おいでください。一緒に相談に乗りたいと思っています。(松下和夫記)

編集後記

11月11日、ポーランド、ワルシャワで始まった国連気候変動枠組み条約第19回締約国会議(COP19)で、フィリピンを直撃し、暴風と津波のような高潮(4m~5mの段波)で、死者1万人と推定される観測史上最大の超大型台風30号について、同国政府サノ代表が涙しながら大演説、この3日間、食事もせず、両手で遺体を集め続ける兄弟を思いながら「COP19

で意義ある合意を形成出来るまで、私は自発的に断食する」と宣言。会場はスタンディング・オーベーションが1分近く鳴り響いたという。このような異常気象が、新たな基準になることを決して放置できない。直ちに有効な対策を立てるよう国際社会に、私たちに突き付けられている。

(児嶋脩記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会(委員長 伊藤清美)
 編集担当 : 児嶋脩、室中善博、松下和夫、林恵美
 問合せ先 : 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1
 Tel044-965-5370 Fax 044-965-5201
 発行日 : 2013年11月27日